15
Sep. 2020

学芸員課程 Newsletter

Newsletter from Course for Prospective Museum Workers, Faculty of Letters, Okayama University

編集・発行: 岡山大学文学部学芸員課程　（編集　光本 順）
発　行　日: 2020年9月30日
文学部学芸員課程 Web Site
https://www.okayama-u.ac.jp/user/pmw

contents

特集　先輩学芸員にきこう！
岡山県立美術館学芸員
三井麻央さん……1～4

「博物館概論」受講生が先輩学芸員に日頃の疑問を尋ねる今号の企画では、岡山大学大学院博士後期課程で学びながら岡山県立美術館で非常勤の学芸員として勤務される、三井麻央さんにご回答いただきました。三井さんは大学で非常勤講師として、ご専門とする美術史の教育経験もあります。学芸業務と大学での研究・教育との関係や、学芸員の仕事に関すること等、学生のさまざまな関心に答えていただいた三井さんに、心より感謝申し上げます。　（文学部准教授　光本 順）

特集

先輩学芸員にきこう！

岡山県立美術館学芸員　三井 麻央さん

学芸員になるには

学芸員として働こうと思ったきっかけは何ですか。

はっきりとしたきっかけはありませんが、高校生のころから漠然と何か美術に関わる仕事につきたいと考えていました。なかでも学芸員の仕事は実際に作品に接しながら働ける点、幅広くいろいろなタイプの美術と関われる点が魅力的だなと思っていました。

学芸員の仕事に役立った経験・学びはありますか。

専門の勉強や読書、美術館の展覧会鑑賞、語学の勉強などはもちろんのこと、その他にもあらゆる意外な経験や特技が生かせる仕事だと思います（動植物に詳しいとか、足腰が強いとか）。

学芸員になるために学生時代からしていたことや、しておいたらよかったなと思うことはありますか。

美術館、博物館へはできるだけたくさん足を運ぶようにしていましたが足りなかった気も。しておいたらよかったのは、もっとたくさん本を読むこと、展覧会を見ておくこと。ちなみにしなかったらよかったのは、好きでもないけど周りがやるからやった方がいいのかな、と思ってやったことです（サークルなど）。

私は学芸員資格の取得を目指して授業を受けてはいますが、「とりあえず取得しておこう」という消極的意欲しか持てていません。興味がないわけではないのですが、学芸員になった自分というものが想像できずにモヤモヤしています。企業就職という道もあったと思いますが、三井さんが学芸員を志したきっかけや転機があれば教えていただきたいです。

きっかけは先述したとおりですが、私も自分が学芸員に適していると思って志願したのではなく、修士のときは企業で就活もしました（そ

学生のみなさんへ
たくさんの質問をありがとうございました。学芸員になってまだまだ日が浅い私ですが、この短期間で見聞きしたことが少しでもみなさんの参考になればうれしいです。

三井麻央さんのお仕事風景（ギャラリートーク）

博物館概論受講生による卒業生へのインタビュー

先輩学芸員にきこう！　岡山県立美術館　学芸員　三井　麻央 さん

インタビュー企画

ても難しそうだなと感じます。

企画展のテーマをどのように決めているのか気になります（入館者が見込めそうなもの、その地域と関係があるもの等）。

多くの来館者が見込めるもの、地域の文化にまつわるもの、自身の研究や関心を生かすチャレンジ的なものなど、年間を通してバランスよくおこなわれるよう考えています。夏休みシーズンは子供も楽しめるものだったり、時期や季節も考慮しつつ配分します。

美術館や博物館の企画で、キャラクターなどとのコラボがしばしば見受けられます。こういった企画は、博物館側がキャラクター側の会社に持ち掛けるのですか。それとも、会社が博物館に売り込むのでしょうか。

展覧会は博物館が単独でおこなうものだけでなく、新聞やテレビ局などのマスコミと一緒に大規模な事業として行うものもあるというのが日本の展覧会の一つの特徴です（すべてではありません）。キャラクターとのコラボなど、華やかなエンタメ系企画があるのは大体そういったマスコミとの展覧会かもしれません。

来館者の方々とのコミュニケーションが重要視される現代で、ご自身が来館者の方に対する姿勢で大切にされていることを教えていただきたいです。

子供から老人まで、誰とでもフラットに、オープンに接すること。難しい内容を単純化しすぎず、話し方を工夫することでわかりやすく話せるようになりたいものです。

生涯学習という観点から博物館は人々にどのような貢献ができるとお考えですか。

文化、芸術は老若男女、古今東西の全ての人に生涯かかわり続け、いろいろな刺激を与えてくれるものだと思います。博物館でなくても文化に接することはできますが、博物館はやはり誰にとっても安全でアクセスしやすく実物を体感できる場所だと思いますし、できればそうあり続けてほしいです。

現在、博物館の活動について学術的側面よりも観光資源的側面を重視する風潮があるように思います。今後の博物館の望ましい在り方について、現場の意見を教えてください。

現場といっても本当に人それぞれ違った意見があります。私自身は、美術館の活動は「学術的側面」と「観光資源的側面」というふうに区別できるものではなく、両者は両立可能だと考えています。

経営規模が小さい歴史美術館のようなものはあまり人気がなく来館者数が少ないように思われます。このような博物館ではどのように開かれた経営や、教育活動を行うべきか教えてください。

来館者数が少ないイコール開かれていない、というわけではないと思います。もちろん新しい時代や社会、技術などに応じて見せ方・伝え方を変えていくことは重要ですが、その結果は来館者数には反映されないかもしれません。来館者数以外の評価基準ももっとあればいいなと思います。

今回の新型コロナウイルスの流行が、博物館に与えた影響についてどのようにお考えですか。

短期的には、展覧会の中止や延期、館内での感染症対策など、毎日そのことが話題に上らない日はないくらい日々の業務に大きな影響を受けています。長期的には、展覧会の運営や内容、博物館のシステム自体を抜本的に見直す必要があるでしょう。とはいえ作品を守り、可能な範囲でそれを公開するという基本的な使命に変わりはないのではないかなとも思います。

学芸員になったあとで、博物館や文化財についての見方・考え方に変化はありましたか。

私が勤務した2年半の短期間にも、豪雨災害や感染症の流行など、防ぎようのない出来事が毎年のように起こっています。博物館が予想外の出来事に対して常に柔軟に変化すること、そしてそれと同時に、ある点においては変化せず作品を守り続けること、その両方のバランスについて強く意識するようになりました。

学芸員として働くことの魅力とは何ですか。

地道な仕事も、自分が好きでやっている仕事も、すべて作品のため、人のためになりうるところ。とにかくたくさんのことに挑戦でき、組織に属していながらも個人の裁量が大きく飽きることがないところ。

ご自身が学芸員として勤務するにあたり心がけていることは何ですか。

いろいろな立場の人の話を聞くこと、なんでも面白いと思ってやってみること、主体的に考えようとすること。

将来どのような学芸員になりたいですか。

長期的に文化・芸術のため、地域のために行動できる学芸員。その上で、自館のコレクションを生かしつつこれまでになかったような見せ方で展示ができる人はとてもかっこいいなと思います。

博物館概論受講生による卒業生へのインタビュー

先輩学芸員にきこう！

岡山県立美術館　学芸員
三井　麻央 さん

プロフィール
2007年　岡山大学文学部入学
2012年　岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期入学
2014年　岡山大学大学院社会文化科学研究科博士後期入学（在学中）
2018年　岡山県立美術館学芸員（在職中）
岡山大学、京都芸術大学、福山大学で非常勤講師（「西洋美術史」他担当）

インタビュー企画

してあまりうまくいかず）。いざ働いてみると、学芸員ってこんな人もいるの！？とイメージの違いに驚くこともしばしばですし、やってみて初めて自分の思わぬ得意／不得意なことに気づいたりもします。あまり前もってしっくりくるかどうかを考えなくていいかもしれません。

学芸員志望以外の人が、学芸員資格を取ることのメリットはあると思いますか。

文化は全ての人に関わるものなので、直接的にも間接的にもメリットはたくさんあると思います。企業や官公庁などでも、文化関連の事業をおこなうところは多いでしょう。そんなとき学芸員課程で得た知識は何かヒントをくれるのでは？これはかなり直接的なメリットですが。

科学系の学芸員として将来働きたいと考えていますが，学芸員の資格を持っていても学芸員として働ける人は本当に少ないと耳にします．実際そうだと思いますか。

学芸員志望の人がよく利用する「学芸員募集の掲示板」という古いウェブサイトを見てみてください。多くはないかもしれませんが決してないわけではなく、一時期よりは増えてきているとも思います。

博士後期課程・大学教育

学芸員として働きながら大学院の博士課程で学ばれているということですが、それに至った経緯や動機などを教えていただきたいです。

博士課程の学生が、大学の非常勤講師や非常勤の学芸員としてキャリアを積みながら博士論文を書くのはよくあることです。私もたまたまよいタイミングでそういった募集があるのを耳にし、やってみることにしました。

中学生に向けた展覧会レクチャー

博士後期課程の院生でありながら、美術館と２つの大学で働いていらっしゃるそうで、とてもお忙しいのではないかと思われますが、大学院生活や大学教員生活のこういった経験が学芸員としての勤務でこのように活かすことができた、というようなことがありましたら、教えてください。

大学院や授業の準備で得られた知識や外国語能力などは、もちろん学芸員の業務でも必要なものです。先生や先輩のいろいろな体験談を聞いていたこと、学会発表や授業などで人にものを説明したり、初対面の人と多く対話した経験があったのはよかったですが、学芸員になってからもたくさん経験できます。

大学院での学業・研究と美術館での勤務の両立において、大変なことや心がけている点について教えていただきたいです。

大変なのはやはり時間のやりくりで、研究時間を確保するためやり方を工夫し、予定を細切れに立てるようにしています（うまくいっているかどうかはさておき）。心がけているのはとにかく健康を保つこと！なかなか習慣化できませんが、適度な運動と自炊はストレス解消にもなります。

大学院での研究が学芸員での勤務時に活かされることはありますか。

相互にあらゆる影響を及ぼすと思います。知識の面だけでなく、情報や文献のサーチ能力や外国語能力、文章を書き書類を作成しプレゼンをする能力など、全部生かせると思います。

ドイツ近代美術史、特に博物館や美術館の建築、装飾について研究されているということで、海外（ドイツ）の博物館と日本の博物館と比較した時の、両者の建築や装飾に関する特徴的な類似点と相違点について教えていただきたいのと、海外の数多くある博物館の中で、なぜドイツの博物館にフォーカスして学ばれているのか、教えていただきたいです。

現代に残る博物館建築は、設立年代も規模も目的も多種多様なので難しいですが…。博物館に限らず、日本で20世紀前半に建設された公共建築は西洋からの影響も大きく、似たようなものがたくさんあります。ドイツの博物館に決めたのは、実際に見てみて壁画という媒体のおもしろさに興味をもったからです。日本の壁画も好きです。

建築やデザインを専門にしている学芸員の方は、三井さん以外にも比較的いらっしゃるのでしょうか。

建築は最近展覧会が増えてきました。デザインといっても、ファッションやグラフィックデザイン、プロダクトデザインなどいろいろな分野の学芸員がいます。

学芸員の仕事

学芸員の仕事がある日は１日に何時間くらい働かれていますか。

基本的に９時から17時ごろまでです。展覧会の始まる前や図録の入稿前になると少し長くなることもあります。

芸術系学芸員の仕事は，具体的にどのようなお仕事なのでしょうか。

博物館学の授業でも学ぶであろう「作品の収集・管理、展覧会の企画・運営、教育・普及」が主な三本柱です。

これまでに美術館でのお仕事の中で、ご自身の企画が実現したことはありますか。

昨年度担当した熊谷守一展では、展示だけでなく図録の執筆やワークショップの企画、チラシのデザインなど、ひとつの展覧会をまるごと担当しました。洋画とはいえ日本美術は専門ではないですしプレッシャーもありましたが、他館の学芸員や所蔵者の方などたくさんの人との出会いがあり楽しかったです。

今まで学芸員として働いてきて、一番やりがいを感じた瞬間はいつですか。また学芸員の大変なところはどんなところでしょうか。

職員だけでなく、来館者や所蔵者、他館の学芸員、地域の住民、マスコミや企画会社、修復家や展示作業員など本当にたくさんの人と関わる仕事です。それぞれの立場にはそれぞれの考えがあり、ひとつの意見だけが正しいわけではないところが大変だと思います。

学芸員になられて、人や考え方や美術品など何でもいいのですが何か大きな出会いはありましたか。実際に学芸員になってから学んだこと、先輩学芸員から学んだことはありますか。

人との出会いはかなりたくさんあり、日々いろいろなことを学んでいます。作家の方々はとても大きなスケールで世界をとらえている人が多く、お話をすると自分の顕微鏡の倍率が変わっていく感じがします。先輩学芸員は驚くほど地域のことに詳しいです。自分は地元でありながらあまり地域のことを知ろうとしてこなかったなと反省しつつ、面白く話を聞いています。

博物館・美術館は地域社会とどのように関わっていくべきだと思いますか。

特に地方の博物館は、その地域の資料（美術作品も含む）の収集を指針にあげているところが多いです。そういった地域ごとの過去にふれるとともに、その地域の未来を長期的に見据え、支えとなれるよう計画した上でつながる必要があると思います。

非常勤の学芸員は博物館で行われる研究にどのくらい携わることができるのですか。非常勤だとあまりできない、下手すると雑用しかさせてもらえないというイメージがあるのですが実際はどうなのでしょうか。また非常勤とそうではない学芸員の業務内容には、研究以外にどのような違いがあるのでしょうか。

館の方針によって本当に千差万別だそうです。岡山県美の場合は常勤の学芸員と同じくらい様々な業務を経験できますし、いまは先輩のサポートが多いですが展覧会も担当します。自分の意見や企画もフラットに聞いてもらえていると思います。

学芸員は幅広い分野の美術品に触れると思います。ご自身の専門分野外の美術品の調査をすることも多いとは思いますが、その際はどのようにするのでしょうか（協力者、専門機関への調査など）。

美術館には複数の分野の学芸員がいるので、一番近い分野の学芸員が対応します。外部のより詳しい人にアドバイスをもらうこともありますし、適任者がいる美術館を紹介することもあります。修復は専門の方にいつもお願いしています。

美術品を保管する上で、最も注意することは何ですか。

なるべく現状維持させることですが、災害も多い昨今、それはとても大変なことです。

研究や調査にさける時間は実際にはどのくらいありますか。

美術館の所蔵品にまつわる調査・研究のことでしょうか？時期によって変わってきますが、今年はコロナの影響でみんな自由に調査も視察もできず、大変困っているところです。

美術館の特別展を企画するには、何が最も難しい部分ですか。

それほど企画をした経験はないものの端から見ている限りでは、世間の人が求めるものとこちらがやりたいことのバランス、そして財政的な制限との兼ね合いがと